

フィンテック革命

ITは金融サービスをどう変えるか!?

中野 悠理

みずほ総合研究所
金融調査部

新たな金融サービスとして注目を集めるフィンテック。本短期連載では、今後どのような金融サービスが出現・台頭し、それがどのような影響を及ぼすかを見ていく。



第1回

フィンテックによる新しい金融サービスの台頭

従来の金融機能を分化して

その一部を代替・補完する

日に日に勢いが増す
非金融業者の参入

1. 世界的に注目を集めるフィンテック

極活用している。ただし、その場合の金融サービスの提供者は金融機関であり、また競合もあくまで同じ金融機関である。

1998年に創業し、クレジットカード番号や銀行口座番号を相手に通知することなく支払いができるオンライン決済や携帯電話番号またはメールアドレス宛の送金など、各種決済サービスの提供を行っている。

フィンテック(Fintech)とは、Finance(金融)とTechnology(技術)を組み合わせた造語であり、広義には金融におけるICT(情報通信技術)の活用を意味する。近年では、特にベンチャー企業等が提供するICTを活用した先進的な金融サービスを指す言葉として注目を集めている。

近年注目されるフィンテックの特徴は、ITベンチャーや流通業者等の非金融業者が金融サービスに参入し、自らが主体となって顧客に金融サービスを提供する点である。欧米では、ITベンチャーがその優れた技術力を背景に、高利便性・低コストの金融サービスを顧客に提供し始めており、一部の金融機関は非金融業者のこうした動きに対し、自らの顧客が奪われると危機感を募らせている。

当初は、金融機関にとって脅威になるとは考えられていなかったが、今や1億8000万人以上のユーザーを持ち、200以上の国と地域で利用可能な世界最大規模のリテール決済プラットフォームである。

もともと金融は情報産業でもあることから、金融機関は従来よりITベンダー等と協働し、ICTを業務効率化やサービス向上に積

発端となったのは、米ペイパル(PayPal)の台頭だ。ペイパルは

非金融業者による金融サービスへの参入は、日に日に勢いを増している。Market Research.comによれば、フィンテック企業への投

資額は、2008年の9億ドルから2014年には99億ドルまで増加しており、2020年には461億ドルに達すると見込まれている。地域別に見ると、ITの中心地であるシリコンバレーを有する米国への投資が中心であるものの、欧州やアジアの成長も見込まれている。

フィンテックが台頭した
主な三つの背景とは

2. フィンテックはなぜ生まれたのか

① ICTの発展
第一はICTの発展である。ハードウェアの処理性能は飛躍的に向上しており、スマートフォン等のモバイルデバイスの進化・普及や通信速度の向上が目覚ましい。

最近では、スマートフォンでスムーズに動画を視聴できたり、人工知能を活用した自動運転車が開発されたりと、ICTの進化に驚かされる。また、ソーシャル・ネ

図表1 ミレニアル世代の金融サービスの捉え方

53%.....銀行が提案する商品・サービスはどれも同じ
71%.....銀行員の話聞くくらいなら、歯医者に行く
33%.....将来的に銀行はなくなってしまうであろう
73%.....Google、Amazon、Apple、PayPal、Squareといった新興企業が金融サービスを提供してほしい

(資料) Viacom Scratch "The Millennial Disruption Index" より、みずほ総合研究所作成

としてい

② 顧客の変化

第二は顧客の変化である。米国では、「ミレニアル世代」と呼ばれる1980〜2000年代生まれの世代が人口の3分の1を占める。この世代は、デジタル機器やインターネットが普及した環境に生まれ育った最初の世代であり、デジタルサービスへの親和性が高く、便利で快適なサービスであれば、提供者に対するこだわりは少ない傾向がある。同世代の73%は金融サービスがGoogleやAmazonなどの新興企業によって提供されることを望んでいるようだ(図表1)。

③ 伝統的金融機関のサービス提供力の低下

第三は、伝統的金融機関のサービス提供力の低下だ。2007年に端を発した世界金融危機を受けて、欧米では多くの金融機関で経営が厳しくなった。金融機関の貸出余力は低下し、一部の金融機関

は手数料の引上げに踏み切った。また、欧米の一部の金融機関は、金融危機以降の規制強化がイノベーションへ割くべき体力とコストを消費させたと言われている。

金融機関のこうした動きは、消費者の既存金融システムに対する信頼を低下させ、フィンテックという代替サービスへシフトさせる一因となったと考えられる。

スマートフォンを

カード決済端末として利用

3. フィンテックの概要

フィンテック企業が提供する金融サービスを分野別に見ると、決済および融資の分野に多い。本稿ではリテール向けの決済・送金・融資、資産運用の三つの分野について、海外のフィンテックの事例を紹介する。

① 決済・送金分野

決済分野のフィンテックとしては、スマートフォンをクレジットカード決済端末として利用する「モバイルPOS(Point of Sales)」が挙げられる。SquareやPayPal Here、Zettle等により提供される